

先月 15 日に内閣府が発表した世論調査で「夫は外で働き妻は家庭を守るべきだ」という考えを支持する人は全体で52%。「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた賛成派が増加したのは1992年の調査以来初めてのこのようです。確かに若い女性の間には専業主婦志向が強まっています。今回の世論調査で「子供ができてもしっかりと職業を続ける方がよい」と答えた20代女性は2009年より15ポイント減りました。男女の役割分担を支持する人が増えています。何故でしょう。右肩上がりの成長が止まり、給料も増えない現代社会。男性一人の収入では妻子を養うことはできない現実がある以上、男性は夢を語っているのかもしれませんが。一方女性は、経済成長の力ぎは女性が働くこととはやしたてられていて暮らしていくためには働かざるを得ないという現実と、いくら働いても「なでしこ管理職」にはなれない日本の「男社会」が、働けば働くほどわかってくるのではないのでしょうか。会社のトップは全て男性、選挙で国会議員を選んでも女性の割合は少なく、女性の活躍する姿がみえてこないことも女性の社会進出に対する意欲を妨げているのではないのでしょうか。欧州では一定比率の女性の登用を義務づけるクォーター制（割当制）をとりいれている国が目立ちますが、日本では「法の下での平等」に反することで反対意見も多く、取り入れられない状況です。もし、先輩の女性が結婚もしないでキャリアを積んで働いてきても、管理職にもなれず、仕事や人生にたいする閉塞感のみ残っているのだとしたらどうでしょう。若い人は結婚して仕事と家庭を両立させるといふ更に過酷な労働を強いられるということがわかっている以上、さっさと仕事を放棄するのではないのでしょうか。少子化なんだから子供も生みなさい。経済成長のために仕事もしなさい。家庭も大事にして育児も家事もしなさい。でもお金も地位もあげませんよといわれて、「はいそうですか」といえる女性は減る一方でしょう。女性に生きがいのもてる職業を与え、努力次第で給料も、地位も与えられるような社会があればもっと女性の意欲もかわるはずです。「アベノミクス」で日本経済がかわれば社会もかわるのでしょうか。期待したいものです。

## ちょっとブレイク

やるべきことは山ほどあるのにやる気が起こらない。体が重い、眠い。一日中ゴロゴロしていて夜はクヨクヨ。食事はいらぬ菓子パンのみですませよう。という人は季節性感情障害、通称「冬うつ」の可能性ありのようです。20代の後半以降の女性に多いとのこと、食べすぎ、寝すぎ、要注意です。

